ひと・あれ・これ

子どもと歩む

奈良県立奈良西養護学校
大川　政美
（平成19年3月　教育学部卒）

教員生活、2年目に突入！

奈良西養護学校は昨年4月に開校した学校です。私はその開校の年に採用されました。

初めは自分の力不足を痛感させられる毎日で、「何だか子どもたちに申し訳ないなぁ」なんて思うこともありました。でも、周りの先生方に助けられ、何よりも子どもたちの笑顔とパワーに励まされて、とても充実した教員生活を送っています。

私の好きな時間

一日の中で、好きな時間が二つあります。まず、子どもたちが登校する時。笑顔いっぱいで「おはよう！」とやって来る子どもたちを見ると、「さぁ今日も頑張るぞ！」という気持ちになります。子どもたちは学校が大好きで、毎日がわくわく・どきどきです。私も「今日はどんな一日になるのかな」と毎朝楽しみです。

もう一つは放課後。「今日○○くんはこんなこと頑張っていたなぁ」「最近○○ちゃんはこんな姿を見せるようになったなぁ」など、子どものことを先生たちと話し合うひとときが好きです。養護学校はチーム・ティーチング（T・T）で指導に当たるので、複数の目で子どもを見ることができます。子どもの成長の喜びも指導上の悩みも、先生たちと分かち合うことができます。また、子どもの見方や捉え方は人によってさまざまです。周りの先生と話し合うことで「そういう考え方もあるのか」と気づかされ、視野が広がったり自分の考えが深まったりしていくのを感じます。

絵本の読み聞かせ

子どもたちへの願い

私は子どもたちに「嬉しい時、悲しい時、しんどい時、それを誰かに伝えられる人になって欲しい」と思っています。そのために、できたことを共に喜び、不安なことを共に乗り越えていく教師でありたいと思います。まだまだ未熟な私ですが、子どもたちと一緒に一歩ずつ歩んでいきたいと考えています。

転職を経験して

株式会社イーリバースドットコム
大阪営業所
江藤　麻央
（平成17年3月　教育学部卒）

あっという間に5年目

社会人になって5年目になりました。某保険会社で営業職を3年間勤め、電子マニフェストのASP業者（アプリケーションサービスプロバイダー）で営業事務として働いて1年と少しが経ちました。

マニフェストとは「積荷目録」を意味する英語で、正式名称は「産業廃棄物管理票」といいます。産業廃棄物を排出する際に、「誰が何をどれだけ排出し、どこで処分するか」を明記したものです。以前は紙だったのですが、電子化が進んでおり、弊社はお客様と電子マニフェストの管轄機関とのASPとして仲介サービスをしています。

大学時代は環境教育コースで、環境問題などにも興味があったため、産業廃棄物を電子で管理することにより、紙などの資源利用の削減や不法投棄が防げる電子マニフェストをシステムで提供する会社へ興味があり、入社しました。

仕事中の様子

営業→事務に変わって

私の働いている会社は、前身も合わせても5年ほどの新しいベンチャー企業で、全社員で30名程です。特に私の所属している大阪営業所は、私以外は全員営業の計4名で、私が営業所に一人になることも多いです。入社一年目はお客様からの電話のお問い合わせに、東京本社などに問い合わせて何とかお答えしていました。最近では知識も付いてきて、随分自分自身で対応できるようになってきました。

3年間保険業界での営業の経験は、建設業界を対象とした現在の会社では直接は活かせませんが、電話での応対などで役立っています。

この1年間は上司から与えられた仕事をこなしていくのに精一杯でしたが、今後は人数も少なく自分が「こうしたい！」と思ったことを提案しやすい会社なので、私自身や他の社員がスムーズに仕事を進められるような事務設計を提案していけるよう頑張っていきます。

留学生レポート

アメリカでの留学生活

総合教育課程　生涯学習コース　4回生
梶原　理沙

from U.S.A.

チャレンジの毎日

中学生時代からの夢であった海外留学の機会にやっと恵まれ、4回生の夏からアメリカのロックヘイブン大学で、留学生として約10ヶ月間過ごしてきました。空港から一人アメリカへ飛び立ったあの日から今までを振り返ると、毎日が挑戦の日々でした。授業では、先生の言っていることがなかなか聞き取れず、宿題をしないまま授業に行って、苦い思いをしたこともありました。放課後は毎日予習・復習をし、机に向かわない日はありませんでした。その努力もあってか、徐々に読むスピードも上がり、先生の言っていることも理解できるようになっていきました。また、レストランでの注文なども、メニューを指さして伝えるのが精一杯でした。しかし、失敗を怖がらず言葉でどうにか伝えようと努力する友達を見て、私も頑張らねばと思い、何回も挑戦し続けた結果、今では店員と雑談する余裕さえ出てきました。努力することの大切さを、身をもって感じることができました。

大切な出会い

留学を通して一番良かったことは、素敵な友達に出会えたことです。台湾から来ていた子とは特に気が合い、多くの時間を共に過ごしました。平日は図書館で勉強してジムで運動、休日はスーパーで買い出しの後一緒にご飯を作り、食事が済むとDVD鑑賞会。そして、長い休みには自分たちで計画して、旅行にもたくさん出かけました。

在米中最後の旅行も、二人で飛行機やホテルなどをすべて予約し、笑ったりケンカしたりもしながら、最高の思い出ができました。多方面でお互いを刺激し合い、唯一無二の存在となったその友達とは、帰国してからも週に一回の頻度で電話をしています。留学生活では、もちろん勉強することも大切ですが、今までに出会ったことのない人たちと出会うこと、それだけでも人生における貴重な体験だと思います。今まで生きてきた中で、一番刺激的な十ヵ月間だったと思います。このような素晴らしい体験を、より多くの人に経験して欲しいと思います。

ニューヨーク旅行にて

留学生レポート

日本体験 ～その最初の3ヶ月

特別聴講学生
ポパ・イワナ

from Romania

留学は人と知り合う機会

日本に着いて間もない頃は、何もかも新鮮で、全てが期待していたよりもうまく進んでおり、地上の天国に辿り着いたような心持でした。言うまでもなく、心配もありました。特に、国で3年間も一人暮らしを続けていた私が、留学生と日本人学生が一緒に住んでいる学生宿舎での共同生活に慣れるかどうかがたまらなく不安でした。しかし、みんなが優しく、私のことをすぐ受け止めてくれたおかげで、この最初のうちの不安と緊張も次第になくなり、生活もなんとなく軌道に乗ってきました。

留学生実地見学旅行（福井県にて）

日本に来るまではずっと留学の目的をその国の言語、習慣などの習得と捉えていたのですが、ここに来て、初めて自分の考え方がどれだけ限られていたかに気付きました。何故かというと、留学はまず人と知り合う機会だからです。留学をきっかけに、色々な国の人と知り合い、接触することによって、留学先の国はともかく、自分と自分の国ももっとよく理解できるようになるとよく言われている通り、日本に来て初めてそれを実感できたわけです。

みんな人間同士だよッ！

私達留学生はおそらく外国人のなかで、自分を他所の人と感じることがもっとも多いかもしれません。日本語がある程度通じるからといっても、困ることがないわけではないです。もちろん、道に迷ったら道を聞くことはできるし、字が読めるから、間違えたりすることもあまりありません。しかし、日本人と同じように扱ってもらいたい、友達になってもらいたいという段階ともなると、問題が多様化してきます。日本語が話せても、それは日本人らしくない日本語だったり、不自然な表現や間違いだらけだったりすることもあるし、言葉が通じても、文化的背景が違うため、日本人に共通している遊びやゲームなど全く分からなくて、日本人の仲間に入れてもらっても適応できず、更につらい思いをすることもあるわけです。私はずっとそう思ってきたためか、自分の「外国人」性、つまり自分が外国人だという状況を意識しすぎて、せっかくできた友だちともある程度以上は親しくなろうとしなかったのです。その一人が優しい一言をくれました。「私達は日本人、外国人と関係なく、みんな人間同士だよ」と。どうせ外国人だし、何ヶ月か後には国に帰るし、という風に考え続けていた私にはその一言がこの上ない心の支えとなりました。

今でも日本語を間違えたり、誤解されたり、意味が通じなかったりすることはもちろんまだ多いですが、それらを減らすための勉強のやりがいもいっぱいあります。今のところはただ、日本語を徹底的に勉強しながら、最後まで友だちと楽しい時間を過ごせるように、と毎日祈っているだけです。